

# 2023年度 研修会ガイドブック



tokyo-msw.com

# 2023

## 2023年度 研修会ガイドブック

2023年4月1日発行

 一般社団法人  
東京都医療ソーシャルワーカー協会

〒170-0005  
東京都豊島区南大塚3丁目43-11  
福祉財団ビル5階

TEL 03-5944-8912

FAX 03-5944-9745



tokyo-msw.com

新人研修

グループスーパービジョンA・B・C

スーパーバイザー養成講座

連続講座

## 目次

2023年度の研修会一覧	1
新人研修の概要	2
新人研修シラバス	3
グループスーパービジョンA・B・Cの概要	4
グループスーパービジョンAのシラバス	5
グループスーパービジョンBのシラバス	6
グループスーパービジョンCのシラバス	7
スーパーバイザー養成講座の概要とシラバス	8
研修会の申込方法	9
オンライン研修の注意事項	9



## 2023年度の研修会一覧

以下の研修会は、当協会の会員に受講資格がありますが、スーパーバイザー養成講座と連続講座は、非会員のソーシャルワーカーも申し込みが可能です。ただし、年会費未納者は受講できませんので、未納分の年会費を全て納入後にお申込みください。年会費を引き落としにされていない会員は、事務局に連絡の上、振込の手続きをお願いいたします。

学生会員は受講できません。

研修名・定員	講師	認定医療ソーシャルワーカーポイント	申込要件
新人研修 60名	協会依頼の講師	特別講義 16 役割理解 10(予定) 個別援助技術 10(予定)	当協会会員 一部、東京都受託事業のため、応募者多数の場合、都内の正会員を優先
グループスーパービジョンA 9名	渡部律子先生 日本女子大学名誉教授	33(予定)	当協会会員 受講者は、成果編集として全ての研修終了後に報告書を提出 東京都発行の冊子「医療ソーシャルワークの解決技法」に掲載予定
グループスーパービジョンB 9名	取出涼子先生 医療法人社団輝生会	26	
グループスーパービジョンC 9名	佐藤俊一先生 NPO法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長 日本ソーシャルワーク学会理事	26	
スーパーバイザー養成講座 20名程度	福山和女先生 ルーテル学院大学名誉教授	21	当協会会員 非会員のソーシャルワーカー
連続講座 20名	協会依頼の講師		当協会会員 非会員のソーシャルワーカー

※連続講座は、今年度後半に開催する予定です。詳細は、開催時期が近くなりましたら、改めてご案内します。

※開催日時や開催時間については、各受講案内をご覧になった上で、お申し込みください。

※認定医療ソーシャルワーカーのポイントは、該当講座の9割以上の出席で発行となります。

### 研修会の留意点

- ・研修を途中で辞退する場合、理由を問わず、原則受講料の返金はいたしません。
- ・研修は、ご自身のスキルアップや、日々の業務への気づきを得るために受講していただくものです。積極的な参加や活発なご意見をぜひお願いします。講師や他の受講生などへの個人的な非難はお控えください。
- ・グループスーパービジョンで一つのグループに偏りがある場合には、教育部で調整させていただくことがあります。予めご了承ください。
- ・参加者が定員に満たない場合は、追加募集を行うこともあります。
- ・多くの会員が受講できるよう、グループスーパービジョンに限り1人1講座の申し込みとさせていただきます。
- ・参加した講座で予定外の講義や合宿などを行う場合の費用は、全て自己負担となります。
- ・途中、講師の事情などにより講師や会場・日時の変更をする場合があります。
- ・上記の他に、「(夜間)講座」を年2回計画しています。

## 新人研修の概要

新人研修は内容としては特別講義・役割理解・個別援助技術の3部構成です。特別講義6回、役割理解を半日×2回、個別援助技術を半日×2回の全10回開催を予定しています。

- ・ **特別講義**: 新人ソーシャルワーカーとして知っておくべき内容を、様々な視点と領域から各回のテーマを設定しています。
- ・ **役割理解**: 組織の中でのソーシャルワーカーの位置づけや果たすべき役割、関係機関との協働などを中心に、組織の中で役立つ基本的内容を講義し、グループワークを行います。
- ・ **個別援助技術**: 日常の相談業務を振り返りながら、面接をいかに行き、どのように進めていけば良いのか、相談者の抱えている本当の問題を発見し、理解するためにどうしたら良いのか…といった、日常の相談業務に活用できる内容を講義し、グループワークを行います。

講師・日時・会場	次ページの新人研修シラバスを参照
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験3年未満の当協会会員 ※未入会の方は、研修申込と共に当協会ホームページを確認の上、入会申込を行ってください。
定員	60名
費用	17,000円(税込、一部東京都受託事業)
申込締切	2023/6/16(金)
申込方法	P9の「研修会の申込方法」を確認し、当協会ホームページよりお申し込みください。 なお、応募者多数の場合は、抽選となります。 ※抽選の場合は、担当者から申込者へご連絡させていただきます。 ※ホームページにアクセスできず、お申し込みが難しい場合は、当協会事務局までご連絡ください。
支払手順	1. 申込締切後、受講決定者には受講決定通知と振込用紙等を送付します。 2. 初回研修の1週間前までに受講費用の振り込みを行ってください。 3. 年会費も振り込みを行った上でご参加ください。 ※振り込みを確認できない場合は、個別にご連絡をさせていただくこともあります。

### 新人研修に関するお問い合わせ先

当協会事務局にご連絡ください。教育部担当理事よりご返答いたします。 Tel: 03-5944-8912 tokyo-msw@tokyo-msw.com

### 昨年度の新人研修受講生の声より

- ・ 今回の講義で、記録の重要性について改めて気づくことができました。特に、記録は自分のための備忘録ではなく、読まれるための記録であるという言葉が心に残っている。自分は今まで、記録について深く考えたことはなかったが、今回の講義でこまめに記録すること、誰にでも伝わる記録を書くことが大事であることを学ぶことができました。
- ・ 情報提供がタイミングを誤るとマイナスなイメージになるなど、MSWが良かれと思って行動したことがクライアントにとって苦痛になることがあるということが分かった。また、援助は相手をコントロールすることに近いこと、クライアントの生活史をアセスメントをすることが重要であることを学んだ。クライアントがどのような人生を送ってきたのかを知ろうとすることで、クライアントに合った支援を行うことができるのではないかと感じた。クライアントがどのような人なのかを想像することができれば、相手を支配せずに支援をすることができるのではないかと考えた。
- ・ 対人援助専門職でもその人個々の体験が内部にあり、援助の強みにもなり弱みにもなり得ること、それを自分で意識することで良い援助につながることに気付けた。
- ・ ソーシャルワーカーが障害年金申請相談を受ける意味として面談の中で生活歴や家族状況、今回の病気になった経過等を聞き、その人が今、生活するにあたりどのような障害が出ているのかアセスメントしたうえで申請の支援ができることに気づいた。
- ・ 先生がおっしゃられていた、いろいろな職種の隙間を埋めるという言葉がとても腑に落ちました。普段は忙しさに追われてしまうので「なんで私が…」と思うことも実はありながら行うことがあります。本来は医事課の仕事ではないかな?と思うのですが、実際にやってみるとそこから退院の道筋が見えることもあります。院内には今MSWが私一人しかおらず、全てを背負うことはもちろんできませんが、MSWの基本的な役割を多職種の方にも理解していただく場もあると円滑に仕事ができる気がするな、と気づきました。
- ・ 初めて会う方々と目標を共有しつつ共同作業をする難しさを改めて実感しましたが、面接でも時に初めてましてのクライアントと課題解決の為に共同作業を行えるよう努めてゆく事を考えるとワーカーとして初対面の他者と打ち解け認め合い共同作業をすることはとても大事な事の一つであると感じました。

## 新人研修シラバス

日時	会場	内容	講師	
7/14(金)	19~21時 Zoom	特別講義	① オリエンテーション 自己紹介:この研修で目指すもの	小松美智子先生 武蔵野大学客員教授 女性の暮らしやすさを考える ソーシャルワーク研究会
7/28(金)			② 先輩ソーシャルワーカーからのお話	現任ソーシャルワーカー
8/5(土)	13~17時 Zoom	役割理解	役割理解(1)	樋口昌彦先生 至誠会第二病院
8/19(土)			役割理解(2)	仲谷恵美子先生 森山脳神経センター病院
9/1(金)	19~21時 Zoom	特別講義	③ 相談援助職の記録の書き方	八木重紀子先生 福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター アアライ株式会社
10/6(金)			④ ソーシャルワークにおける 人間と生活の理解 ~自己理解と関わらせて~	吉浦輪先生 東洋大学福祉社会デザイン学部 社会福祉学科教授
11/10(金)			⑤ クライアントと向き合うこととは? ~サバイバーの方からの話に学ぶ~	山谷佳子先生 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学
12/8(金)			⑥ 事例から考える社会保障制度	藤平輝明先生 研修講師・地域活動ボランティア 元東京医科大学病院 MSW
1/27(土)	13~17時 Zoom	個別援助技術	個別援助技術(1)	小松美智子先生 武蔵野大学客員教授 女性の暮らしやすさを考える ソーシャルワーク研究会
2/17(土)			個別援助技術(2) 修了式	

※講師およびその他の都合により日程が変更になる可能性があります。その際はご連絡します。  
※申込後に勤務先、連絡先等の変更をする際は、当協会事務局と担当理事までご連絡ください。  
※欠席する場合は担当理事までご連絡ください。

## グループスーパービジョンA・B・Cの概要

グループスーパービジョンは、東京都の受託事業であるため、受講者には提出した事例を成果編集という形でまとめていただき、東京都へ提出していただきます。

そして、東京都が『医療ソーシャルワークの解決技法』という冊子にまとめ、都庁都民情報ルームや図書館などに広く配布します。そのため、事例提出の際は原則、クライアントの承諾を得てください。

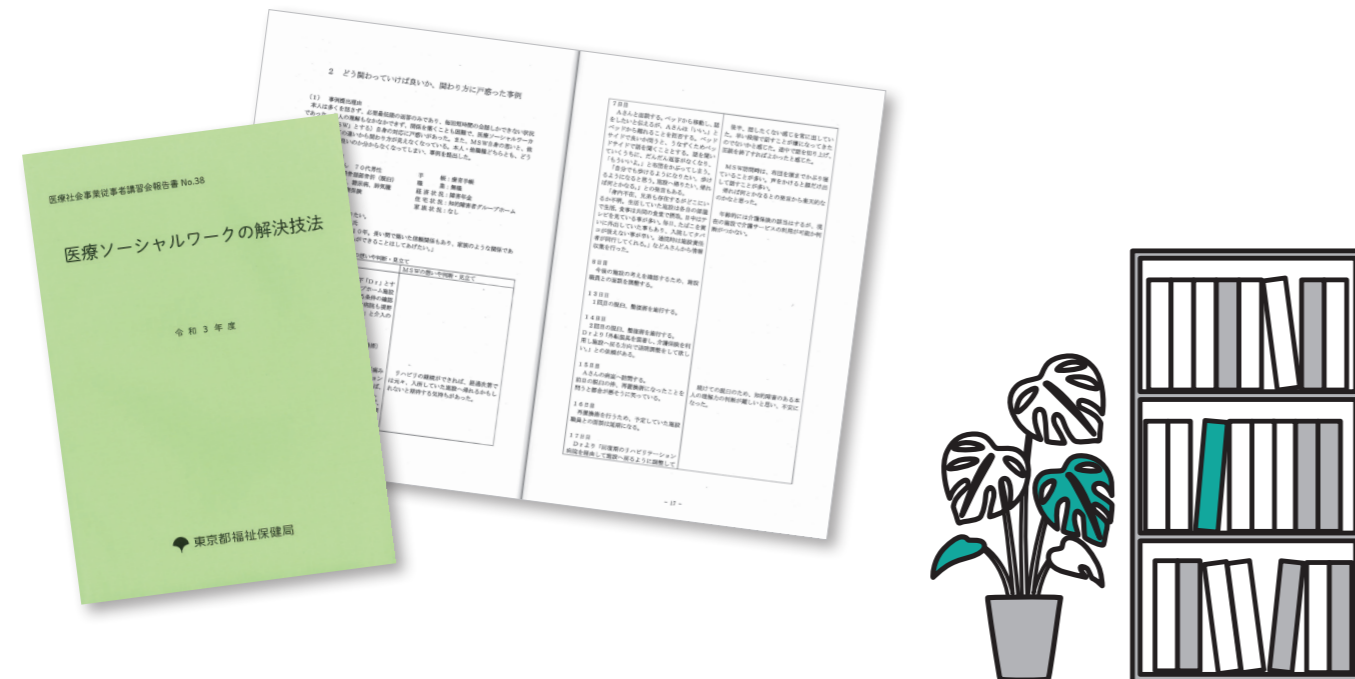
記載方法の詳細については、グループスーパービジョンの初回に教育部からご案内しますので、必ず出席してください。

講師・日時・会場 及び対象者など	P5～P7を参照
定員	A・B・C各9名
費用	東京都受託事業のため無料
申込締切	2023/5/19(金)
申込方法	P9の「研修会の申込方法」を確認し、当協会ホームページよりお申し込みください。 なお、応募者多数の場合は、先着順かつ初受講者を優先とします。 ※応募者多数の場合は、担当者から申込者へご連絡させていただくこともあります。 ※ホームページにアクセスできず、お申し込みが難しい場合は、当協会事務局までご連絡ください。
事例の提出方法	担当者の指示に従い提出してください。 ※メール添付などの指定があります。
事例の提出期限	基本的に次年度の4月末 ※各研修の状況により変更となる場合もあります。それまでの過程は、スーパーバイザーの指示に従ってください。
注意事項	欠席・遅刻・早退があると、認定医療ソーシャルワーカーのポイント証明書を発行できない場合があります。

※提出された原稿は、お返しいたしません。

※原稿は、冊子の校正を進めるにあたり東京都の担当者により変更・訂正・削除される場合もありますので、ご了承ください。

※受講時の事例の配布についても、個人を特定されないよう配慮し、個人情報の保護に努めてください。



## グループスーパービジョンAのシラバス

講師 渡部律子先生(日本女子大学名誉教授)

1976年関西学院大学社会学部・1978年同大学大学院修士課程修了。相談援助職を経て1982年米国ミシガン大学大学院に留学。1983年社会福祉学修士(M.S.W)。1988年心理学修士。1990年哲学博士(Ph.D.専攻:社会福祉学・心理学)。米国でも臨床実践。ニューヨーク州立大学バッファロー校、シカゴ大学社会福祉系大学院で教鞭をとる。1995年関西学院大学助教授。1999年同大学教授。2011年日本女子大学教授。ソーシャルワーカー、ケアマネジャーの研修、グループスーパービジョンなど多数実施(兵庫県介護支援専門員協会での「気づきの事例検討会」)するとともに専門誌でも対人援助職向けの連載執筆(例:「月刊ケアマネジャー」)

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全10回)			10日	8日	12日		14・28日	11日	9日	13日	10日	9日

時間・曜日	15:00～17:30・第2土曜日 ※9月は開催なし、10月は2回開講
会場	Zoom
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験3年以上の当協会会員
参考文献	スーパービジョンが始まるまでにできれば読んでおいていただきたい本 1. 渡部律子(2011)『高齢者援助における相談面接の理論と実際』第二版、医歯薬出版(P1～P148)序章、1章「援助職者の基礎を形成する視点」2章「援助関係を形成するもの」3章「アセスメント」4章「相談面接業務の全プロセス」5章「面接における言語技術」 2. 渡部律子編著(2007)『基礎から学ぶ気づきの事例検討会』中央法規 ピア・グループ・スーパービジョンの概要(第1章P1～P26)、必要な事前学習や勉強に関する内容(第2章P27～P80)、事例検討会に関してよく出てくる質問やそれに対する回答(第5章P313～P327)など

### 講師のコメント

#### 『新たな視点から実践を見つめなおす』

私は実践現場にいた時、自分が成長している実感を持つことができず悩んだ経験があります。そのような時、スーパービジョンが成長に役立つと実感しました。苦しいながら、自分の経験していることを言葉にすることで、固定観念から自由になり異なる視点からケースを捉えなおしてみること、などの重要性に気づきました。クライアントにとって「役立つワーカー」になるためには(ただ言いなりになることではありません)、ソーシャルワーカーが最低限習得しておかなければならない知識・スキル基盤があります。しかし、その基盤はクライアントの多様性にあわせて応用していかなければならず、スーパービジョンは欠かせません。今回、私が実施する予定のグループ・スーパービジョン(以下GS)の方向性を以下に説明します。

#### スーパービジョンの方向性

メンバーの力の活用、民主的な関係性、多面的・統合的アセスメント、建設的な思考の交流、今後使用できる知識・スキル基盤と思考の枠組み提供

1. 私がスーパーバイザー(以後バイザー)役割をとりませんが、全員が積極的に自分の考え、疑問を述べてセッションに参加できる「ピア・グループ(同僚間)・スーパービジョン」要素をとりいれます。(参考文献『気づきの事例検討会』の第3章第3節89ページから288ページまでに掲載している「8つの事例」のどれかを読むと、イメージできると思います)
2. 1回目はオリエンテーションで、メンバー同士を知り、その後の進め方の説明、資料の提供等を行います。2回目以降は毎週一人ずつ、私が準備する「ケースの報告様式」に沿って記述された内容をもとに、GSセッションを実施します。
3. バイザーとスーパーバイザー(以後バイザーと呼ぶ)の関係性は、カデューシンたちが提唱している「民主的な関係」を基本にします。
4. 目指しているのは、単にその場での解決策を求めるのではなく、長期的にその方法が使える「多面的・統合的」なアセスメントができ、そこから支援法を導き出せるワーカーの養成です。担当クライアント、クライアントを取り巻く環境(フォーマルなサポート及びインフォーマルなサポート)、援助関係、所属組織で提供できる援助の可能性と限界、等をしっかりと見つめ直し、担当ケースの全体像理解(援助方針決定の際の根拠などを含む)をゴールにします。
5. 上のようなことを実施するのに必要な基盤となる知識・スキルやGS参加の際に必要な「思考の枠組み」などは、必要に応じて資料提供します。スーパービジョンでどこに焦点を当てて課題を深めていけば良いのか、などを理解するには時間がかかります。そのことを想定して、段階を追って少しずつ学びを深めていきます。少しずつバイザーである私の関与を少なくし、最終的には、受講生のみなさんがピア・グループ・スーパービジョン実施の基本を身に付けられることを目指したいと思っています。皆さんと一緒に学ぶことを楽しみにしています。

#### 昨年度の受講生の声より

- ・事例を通じて、日頃の業務を振り返るきっかけになり、大変貴重な機会となった。
- ・他の参加者からの考えを聞くことで、違った角度からの視点に気づきを得ることができた。
- ・心理的安全性が担保されている環境・雰囲気グループスーパービジョンが展開され、ソーシャルワーカーとして次のステップを踏み出す後押しをしてもらえた。

## グループスーパービジョンBのシラバス

### 講師 取出涼子先生 (医療法人社団 輝生会)

上智大学文学部社会福祉学科卒業、日本福祉大学大学院社会福祉学研究科 (通信) 修了。人工透析専門サテライトクリニック、大学病院ソーシャルワーカーを経て、平成14年医療法人社団輝生会入職。初台リハビリテーション病院 SW 部門チーフ、法人 SWCM 部門統括、人財育成局部長等を経て、令和5年4月から初台リハビリテーション病院外来・通所ソーシャルワーカー。社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員 (実務研修終了)、認定医療社会福祉士 (日本医療ソーシャルワーカー協会)、日本社会福祉士認定・認定機構認定社会福祉士 (医療分野)、スーパーバイザー故奥川幸子氏のスーパービジョンを受講経験あり。

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全10回)			24日	22日	26日	23日	28日	25日	23日	27日	24日	23日

時間・曜日	13:30 ~ 15:30・第4土曜日
会場	Zoom
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験1年以上5年未満の当協会会員
参考文献	1. 奥川幸子 (2007) 『身体知と言語～対人援助技術を鍛える～』中央法規 相談援助を表す図をSV内でご紹介します。 2. 渡部律子 (2011) 『高齢者援助における相談面接の理論と実際』第二版、医歯薬出版 ソーシャルワーク援助プロセスを実践化するために私が最も助けられた本です。

### 講師のコメント

私は、ソーシャルワーカーになって最初の20年あまりはスーパービジョンを受けながら、ここ20年は組織内の部下へのスーパービジョンを実施しながら働いてきました。その際思ったことは、知っている知識を事例の中で活かし、ソーシャルワーク援助プロセスをしっかりと実践することの重要性です。

皆さんも私も、相談援助のための様々な知識を学んでいますが、その知識を実際に実践に活かすことは難しいことです。しかし、その知識が実践に結びつくと、実践に一本の筋が通ります。私が実践やスーパービジョンで役立ててきた知識をご紹介します。皆さんが学んできている知識と、組織の中で採用している知識・技術を、実践で活かせるように、実践事例を通して参加メンバーとともに学びを深めていきましょう。

なお、このグループスーパービジョンは、正式には、グループスーパービジョンのコンサルテーションです。ここで事例に対して話し合われた内容を実践に活かす場合、組織の上司に報告し、組織の援助方針として採用されてから、としてください。

参考文献をご紹介しますが購入をしなくても受講には影響しません。ただし、自分のソーシャルワークの基礎となる教科書は立ち返ることができ、学生時代に読むのとは違う深い学びをもたらしますので、「私の一冊」は探し求めていただくとよいと思います。

### 教育部より

今年度より、講師が変更になりました。対象となっている経験年数5年未満の方は、担当するケースが増え始めて、ソーシャルワーカーとして悩むことが多くなる時期かと思えます。

同じような経験年数のソーシャルワーカーが集まって、学びを深めることのできる機会ですので、ぜひご参加ください。



## グループスーパービジョンCのシラバス

### 講師 佐藤俊一先生 (NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば理事長 / 日本ソーシャルワーク学会理事)

約30年に亘って大学においてソーシャルワーカーを主として、対人支援職の人にかかわる力を身につける教育と研究に従事。現在は、退職して感性を磨き、実践力を向上させるための研修として、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、看護職などの対人支援職のスーパービジョン、グループ臨床を行っている。その学問的な基盤は体験を大切にしている現象学であり、目指すことは一人ひとりの生の覚醒である。

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全10回)			21日	19日	23日	20日	25日	22日	13日	24日	28日	27日

時間・曜日	19:00 ~ 21:00・水曜日 ※第2(12月)、第3(6・7・9月)、第4(8・10・11・1・2・3月)
会場	Zoom ※初回6/21は対面集合(都内)開催予定
対象者	ソーシャルワーカーの実務経験3年以上の当協会会員
参考文献	文献1をテキストとして数回使って学習します。初回には、第1章「ケアを生み出す基礎とは」を読み、印象に残ったこと、わからないことなどを発表できるように準備して臨んでください。 1. 佐藤俊一 (2011) 『ケアを生み出す力 - 傾聴から対話的關係へ』川島書店 2. 同上 (2020) 『スピリチュアリティを目覚めさせる - 均質化する社会を現象学から問う』川島書店

### 講師のコメント

このグループスーパービジョンの最大の目標は、「実践力を生み出す」ことにあります。

臨床の現場で日々苦悩しながら実践している人にとっては、誰もが必要だと感じていることでしょう。ところが、個々の実践力としてイメージしていることをあげてもらおうと、意外と人によって異なることがわかります。

私は、実践力とは、ソーシャルワーカーの持っている知識や技術の量、あるいは引き出しの多さにあるとは思っていません。当然ですが、ハウツウ的な対応や問題解決能力を単に高めることだとも捉えていません。一番の実践力とは、ソーシャルワーカーが「自分自身を使えるか」にあります。

ソーシャルワーカーとして経験を積んでいくと、クライアントや家族、そして取り巻く環境等を見て、判断をします。そこで見えているものを基にして、アセスメント、計画の立案や実行、モニタリングをすることになります。したがって、自分が見えている、聴けていることがベースになるのですが、実践力をつけるとは、まさにこの見る力、聴く力を身につけることで、自分を使えるようになることです。そして、今まで見えなかったものが見えるようになる、あるいは聴けなかったことが聴けるようになることが、支援を動かす大きな力になるのです。一つの事例とのかかわりのなかで、引っかかりや疑問をもつことから見えるようになるのですが、そこではみなさんがどのように感じるのか、すなわち〈感性〉が問われることになります。

研修では、最初の数回で文献を使って、実践力を高めるために必要な基礎の学びを確認します。続いて、個々が事例を提出し、他のメンバーと一緒に事例を検討することで問題への対応だけでなく、自分の課題を発見できるようになっていきます。そのためにはグループで対話できる関係を学び、実践できることが求められます。この学びによって、日ごろの実践においてもクライアントや家族だけでなく、チームのメンバーや地域の関係者とも対話をすることで、今まで見えなかったものが見えるようになります。対人援助力を基礎から高めるスーパービジョンに、奮ってご参加ください。

### 昨年度受講生の声より

- 受講して今までの知識・経験の積み重ねがある意味自分の思考を縛ってしまっていることに気がついた。患者との生のやり取りに焦点を当て、その場で感じたことをきちんと返すというシンプルなコミュニケーションを実践出来るように研修での学びを活かしていきたい。
- SW経験年数としてはベテランと言われる世代。業務上の困りごとは少ないものの、業務に追われながら淡々と過ぎる日々、「このままで良いのだろうか」との不安を感じ、何らかの刺激を受けたい気持ちで、GSVを申し込んだ。研修は、「相手の話をきいて、自分はそれをどう受け止めたのか」感じたことを相手に伝えることをはじめ、MSWである以前に、人として人に関わる基礎の学びの連続である。出来ていない自分を思い知らされる辛さもあるが、そこに向き合う大切さも痛感できることで、「このままで良いのだろうか」の不安の源が、少しずつ解消されてきているように感じている。
- 今までソーシャルワークを理論で捉えようとしてきたもののアセスメントに課題を感じていました。受講したことで「対話する」意味について、対人援助を超えてきて、自分の課題に実践的に取り組んでいます。

## スーパーバイザー養成講座の概要とシラバス

### 講師 福山和女先生 (ルーテル学院大学名誉教授)

同志社大学卒。同大学院修士課程修了。カリフォルニア大学バークレイ校修士課程修了。公衆衛生学修士 (MPH)。Catholic University of America 大学院博士課程修了。社会福祉学博士 (DSW)。スーパービジョン・コンサルテーション研修では、全国各地で保健医療・福祉の専門家たちの指導にあっている。

日程	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(全8回)			20日	18日		19日	17日	21日	19日	16日	20日	

時間・曜日	18:30 ~ 20:30、第3火曜日
会場	Zoom
対象者	実務経験2年以上のソーシャルワーカー
定員	20名程度 ※申込数が定員の4割以下の場合、講座が中止になる場合もあります。
費用	会員 25,000円 (税込) 非会員 37,000円 (税込)
申込締切	2023/5/19 (金)
申込方法	P9の「研修会の申込方法」を確認し、当協会ホームページよりお申し込みください。 なお、応募者多数の場合は、先着順とします。 ※受講決定者には、後日、振込用紙を配布します。 ※ホームページにアクセスできず、お申し込みが難しい場合は、当協会事務局までご連絡ください。
参考文献	1. 福山和女編著 (2005) 『ソーシャルワークのスーパービジョン』 ミネルヴァ書房 2. 福山和女・小原真知子監訳 (2014) 『統合的短期的スーパービジョン』 金剛出版
注意事項	欠席・遅刻・早退があると、認定医療ソーシャルワーカーのポイント証明書を発行できない場合があります。

### 講師のコメント

この講座の名前が、スーパーバイザー養成講座となっている理由があります。講師としては、スーパービジョンでいうところのスーパーバイザーとしての責任を遂行する機能をもたないことが特徴です。受講者の方々の業務遂行能力を育成することに力点を置いています。受講者が「難しい」と叫び声を出しています。でも、その叫びは日ごろのソーシャルワーク業務活動の中で、疑問点・困難点を抱かざるをえない現場で働いていられるからです。決して、受講者が業務を軽視したり、手を抜いたりしているわけではありません。皆さんは、できる限りの努力をして業務をなさっています。この講座では、その専門性の高さをなんとか明らかにすること、その活動に妥当性を見つけるための話し合いをすることです。

同僚、部下の育成が問題となっていますが、スーパーバイザーである皆さんのやり方が問題なのではありません。むしろ、そのような現象が生じる社会の事象ですので、スーパービジョンでは、その事象をうまく活用して、ソーシャルワーク実践の意義を深めていきましょう。「さすがソーシャルワーカーさんですね」と言われたいものです。

スーパービジョンの話し合いでは、所属組織の課題も取り上げることになりますが、情報開示の件は十分に考慮して行います。秘密保持の原則を順守し、「アメリカでは…」というように、内容を加工して話し合います。これも、専門家に求められる能力ですのでそのトレーニングもいたします。

### 昨年度の受講生の声より

- この1年で、自分の変化を実感するほどでした。参加してよかったと本当に思っております。考えが変化しました。毎回毎回気づきや得るものがありました。
- スーパービジョンを学んでも学んでも自信がなく実践に生かすことができずにいましたが、今回の研修を通してスーパービジョンの体系(プランニング)、バイザーとバイジエーのそれぞれの課題、準備、時間の使い方などを学ぶことができ、実践してみることができました。少人数で意見を交わすことで様々な視点、多角的な捉え方をする機会にも恵まれました。
- とても内容の濃い研修で、ついていくのに必死でしたが、良い刺激になったと思います。

## 研修会の申込方法

全ての研修の申し込みは、当協会のホームページで受け付けます。ただし、現在、ホームページのリニューアルを進めています。リニューアルオープンの4/1(予定)以降に、ホームページからお申し込みください。なお、ホームページのURLは、変わりません。

一般社団法人  
東京都医療ソーシャルワーカー協会 URL  
<https://tokyo-msw.com>



## オンライン研修の注意事項

- 2023年度の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、原則Zoomを使用したオンライン研修(以下、研修)となりますが、今後の社会状況によっては、研修の受講方法が変わる可能性もあります。
- 本注意事項に違反する行為がわかった場合、協会として受講の取り消しや認定ポイントの取り消し等の対応を行う場合があります。なお、本注意事項を遵守しなかったことが原因で発生した問題については、協会はその責任は負いません。
- 研修を受講するには、パソコンやタブレット、スマートフォンといったデバイス、ウェブカメラ、マイク、インターネットの接続などが必要です。各自で準備してください。協会から受講生に貸し出すことはありません。
- 研修の受講に際して発生した通信料は、受講生の負担となります。
- インターネットやスマートフォンなどの契約によっては、多大な通信料が発生してしまう可能性があります。ご自身の契約内容を十分にご確認ください。
- スマートフォンでの受講も可能ですが、画面の視認性や操作性の観点から、極力パソコンやタブレットでの受講をご検討ください。
- カメラやマイク、スピーカーが内蔵されていないデバイスを使用している場合は、外付けのものを各自で準備してください。
- Zoomなどのアプリをインストールする際は、課金契約を確認することをお勧めします。
- OSやアプリのアップデートは欠かさずに行なうことをお勧めします。通常、最新版の方が、安定性や安全性が高くなります。
- セキュリティ上、フリーWi-Fiは利用しないでください。
- 外部に音が漏れることによる個人情報漏洩を防ぐため、個室での受講や、イヤホンやヘッドフォンを使用してください。
- 悪意ある第三者からの妨害行為を防ぐため、オンライン研修で使うミーティングIDやパスコードを他人に伝えることや、SNSなどに掲載することを禁止します。
- 研修を録画・録音すること及び研修内容をSNSなどに掲載することを禁止します。
- Zoomの操作によっては、ご自身の使用しているデバイスの画面が、画面共有されてしまう可能性があります。第三者に見られたくないような情報(ネットバンク等)は、ウィンドウを閉じておく、パスワードによるロックをかける、デスクトップからアイコンを隠すなどの対策をしてください。
- 研修中は、ウェブカメラをオンにして、ご自身が映るようにしてください。また、その際、室内の背景も映ります。気になる方は、背景の変更をご自身で設定してください。
- 研修中は、研修の受講に集中してください。まれに、業務を行いながら受講しているのではないと思われる方がいらつしゃいます。そのような場合には、教育部で1度退室していただく対応をすることがありますので、ご了承ください。受講中にどうしても離席しなくてはならない場合は、教育部理事に申し出てください。
- 欠席者への振替講義や、講義の録画の視聴対応はいたしません。